

専門委員会の検討内容に対する地区部会委員の意見

東青・下北地区部会(第2回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方(第1専門委員会)	1学年当たりの適正な学級数	<ul style="list-style-type: none"> ・市部の普通科の適正な学級数について、進学校とそうでない学校を分ける理由がわからない。どのように区分けするのか疑問である。 ・どうしてもやむを得ない学校のみ特色を持たせて存続させるというのは賛成である。ただ、存続がどうしても無理という状況になった時には、交通事情などを考慮し、通学に配慮した支援策を、県としては無理だということであれば県がリーダーシップを取って、市町村あるいは支援団体等に働きかけることが必要である。
	普通科と職業学科と総合学科のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・生徒から圧倒的に支持される普通高校を増やすということに関しては全体的にそうであると認めるが、工業高校でもものづくりなど工業センスを磨いて大学に進学する生徒もいるので、全てが普通化志向ばかりではない。 ・普通、職業、総合学科の募集割合については、単純に増やすとか減らすという問題ではなく、割合にあまりこだわらすべきではない。
	適正な学校規模を実現するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・専門委員会と同じく、統廃合はやむなし。
2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方(第2専門委員会)	学科・コース等の今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科に併設されている専門学科については、スポーツ科学科以外は機能していない。スポーツ科学科についてはもう少し長い目で様子を見る必要があるが、機能していないというその他の普通科に併設されている専門学科については見直した方がよい。 ・専門高校の細分化、専門化した学科を、基礎基本重視の観点から統合、再編することが必要である。 ・大方の委員は新しい学科の必要性は認めていない。 ・地域性を持った新しい学科の設置という事で、地元就職のために下北に原子力関連学科の設置を考えられないか。 ・専門高校の小学科の中身を考えると、括り募集ができる学校とできにくい学校があるのではないか。

東青・下北地区部会(第3回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>校舎制の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大湊高校は普通科ではなく総合学科だが、川内校舎は普通科。本校は総合学科で校舎が普通科である事について、どう見ればいいのか。 ・ 県がスクールバス等を考えれば、大畑校舎は統廃合の対象と捉えていい。 ・ 下北むつ地区は地域的には離れていて、目標を持った生徒は別だが、この地域から青森市や八戸市へ通学はできないので、この地域で何とかするように考えるべき。 ・ 校舎制についていずれは見直すべき。通学に対する負担は考えなくてはいけませんが、やはり楽しい高校生活を送らせるためには、ある程度の規模の高校がよい。 ・ 校舎化した学校の志願倍率が基準になるかは今後の検討だが、ある程度の基準を作っておかなくては地域の理解を得るのが難しい。 ・ 前期後期のトータルで、最終的な入学者数が定員に達しているかが基準。 ・ 統廃合はやむをえなく十分な手当が必要となるが、少子化を踏まえると、新たに校舎制が出るのは望ましくない。 ・ 生徒の絶対的な数が減る中で統合せざるをえない事は、総論では当然だが各論では本当にそうなのか。通学の利便性だけでなく学力向上を求める父兄も多い、と書いているが地域によっては違う部分もあるので、そういう所は残ればいい。 ・ スクールバス等の補助的な制度を考えるにしても、これまでも通学している生徒との差別感が無いように考慮しなくては。
	<p>定時制の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労青年の学びの場から変化し、多様な学習ニーズや心や身体や経済的な悩みを抱えた生徒に対応。 ・ 工業高校の定時制は、やはりその役割は終わった。技術が進み夜の短い時間で専門性を高めるのは無理だし、専門的に学びたい生徒もほぼいない。 ・ 下北むつ地区としては、やはり田名部高校の定時制は現状として必要。
<p>3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方</p>	<p>学校連携の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大湊中へ行くと大湊高へ行けると考え、勉強に対する姿勢が薄れる事が危惧。 ・ 様々な連携はあるが、教育効果や入試を考えると連携型は問題が多い。 ・ 25人程度しか連携を図っていないのでは、中高、教育委員会にも考える余地がある。連携型中高一貫には解消すべきと思われる学校もある。 ・ 近隣に大学を抱えている地域では活発にやっている学校もあるが、どの地域でもとなると歪みが生じる。 ・ この地区ではなかなか高大連携は考えにくい。

西北・中南地区部会(第2回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市部、町村部という分類について、市町村合併前の8市だった頃の行政区で考えるべきである。 ・教育水準を維持・向上するためには最低限4学級以上は必要である。ただし、地域の実情を踏まえて、どうしてもという場合はそれ以下もやむを得ない。 ・進学ということを考えると、普通科へ進学したいという中学生が多いということから、6学級以上は必要である。 ・募集については、現状の6地区を念頭に置いて市部、町村部の学校について考えていく必要がある。全県一区となっても、移動の問題を考えると他地区の学校に行くということはそれほどないと考えられるので、学級数についてもその中である程度考えて行くのがよい。
	<p>普通科と職業学科と総合学科のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科の希望者が非常に多いということから、普通科を増やしていく方がよい。ただし、専門学科のニーズもあるだろうと言うことを考えると、学級数は少なくなくても、専門高校をなくすることではない。
	<p>適正な学校規模を実現するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合は少子化の影響を考えるとやむをえない。
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校については、青森県政の施策的なことも考慮して、特色ある学科を設ける方向などを今から考えてはどうか。 ・既設の学科・コース等について再検討し、学科の細分化には余り賛成できないので、基礎基本をしっかり身に付けさせる学科が必要。専門高校の学科はシンプルでスタンダードな学科がよい。 ・普通科の全日制単位制高校の設置に関しては、今ある学校と設置が決まっている学校の実績を見て判断すべき。 ・括り募集については賛成の意見が多い。

西北・中南地区部会(第3回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>校舎制の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県独自に教員を配置可能ならば校舎制も存続してよい。 ・ 深浦高校は、距離的に見て校舎化は認めざるをえない。状況を見ながら、必要な所は認めるといふ柔軟な対応をせざるをえない。 ・ 高校が義務教育化して、親が子に高校を受けさせたいと考えるのは当然だが、それで教員配置ができないのでは困る。もう少し推移を見て方向性を決めるべき。 ・ 存続するにしても、同じ教育水準で教育を受けられるような教員配置を。 ・ 10年後に生徒数が減るのが見えているので、いずれは統廃合も考える。 ・ 通学費の負担が可能であれば、一般的には校舎制はなくてもよい。 ・ 校舎制の学校が魅力ある学校特徴・ある学校を目指し、それでも駄目であれば統廃合。 ・ 教育水準を考えるとやはり校舎制は避けた方がいいが、特殊な事情を考え残さざるをえない学校もある。新たに導入する時は、一定の基準を決めた上で導入する。
	<p>定時制の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方も多様になっているので、できれば残しておきたい。 ・ 昔の勤労学徒のイメージからは変わっている。就職しながら通っている生徒は3割程度。 ・ 工業の定時制は人数が少なくても、無くしてはいけない。 ・ 工業高校の役目は終わった。職を身につける意味であれば、高等技術専門校がある。 ・ 生徒が多様化しているので残すべきだが、金の卵時代は終わった事を考えると、工業高校の定時制はどうあるべきか考えるべき。
<p>3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方</p>	<p>学校連携の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置については様子を見たい。成績が上がると違う学校へ生徒が行ってしまう事から、西北地区では五所川原高校でないという意味が無い。 ・ 青森県でもカリキュラム等を工夫してレベルアップを図り、日本全国で活躍できる人材を育てるべき。 ・ 津軽地方にあってもいいのでは。 ・ 中高のギャップを埋めてやる事によって大分問題が解決できるのでは。 ・ 学校のレベルを高め中央で活躍できる人材を育てる、と考えると併設型がいい。 ・ 西北地区は交通の問題があるが、できるだけ機会を設け連携を進め、大学だけでなく農業大学校等との連携を進める事が必要。

上北・三八地区部会(第2回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市部や町村部の高校の学級数については、専門委員会の意見が概ね了承された。しかし、上北・三八地区の場合、特に八戸市内の高校を考えると中学校の卒業生と県立高校の卒業生の数が合わないのではないかと。 ・町村部の普通科は3～4学級だが、最低2学級については絶対賛成である。特に上北地区はあまり交通の便がよくないので、何とか離れた場所でも残してほしい。
	<p>普通科と職業学科と総合学科のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科については、ほとんどの生徒が上級の学校を目指して頑張っているため、減らす必要はない。職業学科については、基礎基本の学習、挨拶、精神面を育てることが必要になっている。それから、進学者が非常に増えているので、進学指導の教科も絶対に必要である。 ・職業学科の学科名はいろいろあるが、あまり意味が分からないので、中学生や保護者にわかりやすい学科名にした方がよい。 ・総合学科については、進学校以外に進んだ生徒にとっては、必要な学科と思われるが、総合学科の予算や実績がまだはっきりと見えていない状態なので、県南地区に総合学科を導入することには慎重である。
	<p>適正な学校規模を実現するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の減少が明らかなので、統廃合はやむを得ない。しかし、地域住民の理解を得られるような基準を設ける必要があるのではないかと。 ・地区毎の学校配置については、地域の事情による柔軟な学校配置にしてほしい。
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本をきちんと身に付けさせることが今は求められている。 ・新設高校については、県の財政難の時期に三八上北地区では考えなくてもよい。

上北・三八地区部会(第3回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方(第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性 (イ)これまで設置した学科・コースの今後の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校は特色を出そうと工夫した学科名を作ったが、逆にその名称から学習内容を想像する事が難しく、中学生の募集や地域の理解に影響があるので、学科名はシンプルにし学習内容を濃くした方が良い。ミスマッチがあると生徒も学校も大変。 ・ 様々な年代で内容や名前が変わるのは理解できるが、中学生・保護者への広報をもう少ししても良い。今でも学校説明会はやっていると思うが、希望者に対しては、勉強内容や各学科の違い等を分からせる機会を増やすと良い。 ・ 体験入学やPR活動をたくさん実施してもやはり限界があり、基本的な部分が子ども達も良く分からないままに行く所もあるし、ましてや途中で興味が移ることもある。そういう意味では、入り口は広くして途中で選択肢を狭めて行けるような仕組みが必要。それが括り募集か。 ・ 商業科であれば、1年次から専門的な授業をやらないとそれ相応の力が付かないので、括り募集については一長一短がある。 ・ 専門高校でも進学する生徒は増えており、教員配置もきちんと確保しその指導体制をきちんと取るべき。
	<p>(ウ)普通科における全日制単位制の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学する生徒は、自分でやるという目標・目的を持っていないと出来ない。
	<p>(エ)新しい学科等の設置の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この地区で新しい学科を設ける事について、この部会では触れないという事で、企業が求めるのはどのような方向性かという事は、少し話し合う必要がある。
	<p>(オ)統廃合による、新しいタイプの高校の可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合するにしても、通学をどうするのか、寄宿舍の問題等の様々な問題を含んでいる。 ・ 農業高校は広大な敷地、設備を持ち、工業高校も様々な設備が整っている。どちらもメリットがあるが、教員配置等の色々な課題が出てきて、簡単にはいかない。

上北・三八地区部会(第3回分)

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>校舎制の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎化になるという整理は賛成だが、入学状況についてある程度のラインを決め、満たない場合は統廃合はやむをえない、という制度が必要。 ・ 子どもが少なく学校が縮小されるという事は、本当に子ども達の活動に支障がある。部活動や文化的な活動も制限され、指導する先生も少なくなる。そこを地域の保護者は理解すべき。 ・ あくまでも例外としての校舎化。例外として残っている高校としての機能を果たさない学校へ入学して、果たしてその子の将来のために良いのか。下宿をしても何をしても、色々切磋琢磨できる高校へ行って欲しい。 ・ ただ生徒の受け皿とするために校舎化して高校を残すのは、理由が弱い。 ・ 進学対応は6学級規模が必要と言う時に、校舎化を残すと2学級の学校が増え駄目になる。ここを考えて欲しい。勿論校舎化も残してあげたいが。 ・ 校舎化をすると規模の小さい学校だけが残り、果たしてそれで学力が維持できるのか。全部の学校を減らすのではなく、学力を維持できる大規模校を残すべき。 ・ 地域の学校は周りの応援があって非常に良いが、果たしてその子ども達がどうなる。学習内容や、これから先の事を考えると、統廃合し、そこできちんと教育を受けて、競い合い、頑張り、良い大人になって欲しい。
	<p>定時制の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な数という点では、三沢高校は存続させ、これ以上増やす必要はない。 ・ 昔からの感覚では働きながら勉強するのだが、多様な生徒を引き受けている学校であり、できれば残して欲しい。やはりどこかで手を差し伸べてくれるような学校が欲しい。
<p>3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方</p>	<p>学校連携の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 併設型は面白い試み。逆に言えば、連携型は中途半端な感じがするので併設型が良い。 ・ むしろ中堅校に併設して中高一貫教育をする事で、より子どもを伸ばせるのではないか。 ・ 1つの形にこだわらず併設型ができれば魅力的。とにかく医者の人材を育てるのも1つの試みだし、生徒の心を重視する事も、それはそれで非常に高く評価できる。 ・ オープンキャンパスや体験学習は、各学校においては総合的な学習の時間を軸として取り組んでいる。